

抗がん剤療法指示票
F-02(No.8)

パクリタキセル・カルボプラチン併用療法(monthly)

第 () 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署	外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医	
病名	病名テスト#####@	指示受け看護師			

腫瘍； (組織型； 段階；)
血清Cr； 1.7 mg/dL CCr (計算値)； 52.4 mL/分

パクリタキセル投与量 = 175 mg/m²

カルボプラチン投与量 = AUC5 × (CCr + 25) {CCrはCockcroft-Gaultの式より算出}

前回最終投与日	施行決定日
/	施行決定医

8 月 1 日 月 曜日	実施時間	実施印
10:00 ① 生理食塩液100mLでルート確保 (メインルート/プラネクタ輸液セットフィルタ付) (ポート・末梢)	<Dr>	
② 生理食塩液50mL+デキサート19.8mg + ファモチジン注20mg 1A +ポララミン注5mg イメンド125mg 1カプセル服用(②の開始時)	(15分) <Ns> <Ns>	
10:15 ③ 生理食塩液100mL + アロキシ0.75mg 1V	(30分) <Ns>	
10:45 ④ 5%ブドウ糖液500mL + パクリタキセル【 】mg 《参考投与量 302.8 mg》 (ボトルを更新することは、必ず医師が行う) ※滴下速度調整参考データ パクリタキセル300mgの場合、48滴/30秒	(180分) <Dr>	
13:45 ⑤ 生理食塩液250mL	(60分) <Ns>	
14:45 ⑥ 5%ブドウ糖液250mL + カルボプラチン【 】mg 《参考投与量 387.2 mg》 (ボトルを更新することは、必ず医師が行う)	(60分) <Dr>	
15:45 ⑦ 生理食塩液50mL 点滴し抜去 ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去	<Ns>	

処方 イメンド80mg 1錠 2日分 ケモ翌日から (アサ食後) [/ 処方・印]

※強い吐き気が予想される時

ケモ翌日から デカドロン錠(4mg) 1錠
ファモチジンD錠(20mg) 1錠] 朝食後 2日分 [/ 処方・印]

※ 白血球 4000/mm³ 以上、好中球 2000/mm³ 以上で投与可

※ パクリタキセル投与開始後10分間はベッドサイドにて観察。

投与開始から1時間は、モニターをつけて15分毎に血圧・脈拍測定。以降は30分毎に測定。

抗がん剤療法指示票
F-03(No.9)

パクリタキセル・カルボプラチン(Weekly)併用療法

第 () 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師	
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

腫瘍； (組織型； 段階；)
 血清Cr； 1.7 mg/dL CCr (計算値)； 52.4 mL/分

パクリタキセル通常投与量 = 60 ~ 80 mg/m² 参考投与量： 103.8 mg/body
 カルボプラチン通常投与量 = AUC2 × (CCr + 25)、 参考投与量： 154.9 mg/body
 { CCr はCockcroft-Gaultの式より算出 }

3週投薬・1週休薬 = 3クール 6週投薬・2週休薬 = 3クール

前回最終投与日		1回目	2回目	3回目
/		8 / 1(月)	8 / 8(月)	8 / 15(月)
		施行		
		決定医		

	1回目	2回目	3回目
① 生理食塩液100mLでルート確保 (メインルート/プラネクタ輸液セットフィルタ付) (ポート・末梢) <Dr>	実施時間		
	実施印		
② 生理食塩液50mL+デキサート8.25mg + ファモチジン注20mg 1A + ポラミン注5mg 1A (15分) <Ns>	実施時間		
	実施印		
③ 生理食塩液100mL + アロキシ0.75mg 1V (30分) <Ns>	実施時間		
	実施印		
④ パクリタキセル【 】mg+生理食塩液250mL (1時間) <Dr>	実施時間		
	実施印		
⑤ カルボプラチン【 】mg+5%ブドウ糖液250mL (1時間) <Dr>	実施時間		
	実施印		
⑥ 生理食塩液50mL (点滴静注後、点滴抜去にて終了) ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>	実施時間		
	実施印		

- ① パクリタキセル用点滴セットによる血管確保とパクリタキセルの取り扱いは、すべて医師が行う。
- ② パクリタキセル投与開始後10分間は、ベッドサイドにて観察。
 投与開始から1時間は、モニターをつけて15分毎に血圧・脈拍測定。
 以降は30分毎に測定。
 ※各クール開始前：白血球3000/mm³以上、好中球1500/mm³以上で投与可
 ※同一クール内直前：白血球2000/mm³以上、好中球1000/mm³以上で投与可

抗がん剤療法指示票
F-04(No.73)

CPT-11療法（卵巣がん）

第（ ）回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署	外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医	
病名	病名テスト#####@	指示受け看護師			

投与間隔 : 3週投与、1週休薬 投与量 : 100mg/m²

[施行決定医]

前回最終投与日	①	8	月	1	日	(月 曜)	
	②	8	月	8	日	(月 曜)	
	③	8	月	15	日	(月 曜)	

※投与前に投与量の調節のため、UGT1A1検査施行が望ましい

投与方法		1回目	2回目	3回目
①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢) <Dr>	実施時刻		
	イメンド125mg 1カプセル服用(ルートキープ時に内服) <Ns>	実施時刻		
②	生理食塩液100mL + アロキシ0.75mg 1V + デキサート6.6mg	実施時刻		
	30分で点滴 <Ns>	実施印		
③	5%ブドウ糖液500mL + イリノテカン(CPT-11)【 】mg	実施時刻		
	《参考投与量 173.0 mg》 [100mg/m ²] 90分で点滴 <Dr>	実施印		
④	生理食塩液50mL	実施時刻		
	※ただしポートを使用している場合は ヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>	実施印		

副作用対策	
下痢	<p>早期下痢（直後から翌日に起こる下痢）：抗コリン剤（アトロピン、ブスコパン） 遅発性下痢（数日から6日目頃に起こる下痢）</p> <ul style="list-style-type: none"> ロペラミド1～2Cを1日1～4回投与 無効の時はロペラミド2Cを2時間毎12時間投与 予防薬 カマグ 1.5g 毎食後 重曹 1.8g 毎食後2時間 <p>投与前日より4日間投与</p> <ul style="list-style-type: none"> 細菌性の整腸剤（ビオスリー・ミヤBM）や乳酸飲料は禁止 <p>〔内服① / 印〕〔内服② / 印〕〔内服③ / 印〕</p>

副作用対策 [イメンド80mg 1錠 アサ食後 2日分 ケモ翌日から]

[/ 処方・印] [/ 処方・印] [/ 処方・印]

※ 投与前は白血球数 3000 以上、血小板 10万 以上で投与可

抗がん剤療法指示票
F-05

パクリタキセル・カルボプラチン・アバスチン療法

第 () 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師	
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

腫瘍； (組織型； 段階；)
血清Cr； 1.7 mg/dL CCr (計算値)； 52.4 mL/分

パクリタキセル投与量 = 175 mg/m²
カルボプラチン投与量 = AUC5 × (CCr + 25) {CCrはCockcroft-Gaultの式より算出}

適応 : FIGO StageⅢ以上の卵巣がん
手術後28日以内のときはアバスチンは使用不可

投与間隔 : 3週間毎に1サイクル
TC療法+アバスチン2~6サイクル→アバスチン継続投与(7~最大22サイクル)

前回最終投与日	施行決定日	
/	施行決定医	

8 月 1 日 月 曜日		実施時間	実施印
10:00	① 生理食塩液100mLでルート確保 (メインルート/プラネクタ輸液セットフィルタ付) (ポート・末梢)		
		<Dr>	
	② 生理食塩液50mL+デキサート19.8mg + ファモチジン注20mg 1A +ポララミン注5mg イメンド125mg 1カプセル服用(②の開始時)	(15分) <Ns>	
		<Ns>	
10:15	③ 生理食塩液100mL + アロキシ0.75mg 1V	(30分) <Ns>	
10:45	④ 5%ブドウ糖液500mL + パクリタキセル【 】mg 《参考投与量 302.8 mg》 (ボトルを更新することは、必ず医師が行う)	(180分) <Dr>	
13:45	⑤ 5%ブドウ糖液250mL + カルボプラチン【 】mg 《参考投与量 387.2 mg》	(60分) <Dr>	
14:45	⑥ 生理食塩液100mL+アバスチン【 】mg (15mg/kg) 《参考投与量 982.5 mg》 ※初回投与のみ90分、次回より60分、30分と短縮可	(90分) <Ns>	
	⑦ 生理食塩液50mL 点滴し抜去 ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去	<Ns>	

処方 イメンド80mg 1錠 2日分 ケモ翌日から(アサ食後) [/ 処方・印]

※強い吐き気が予想されるとき
ケモ翌日から デカドロン錠(4mg) 1錠
ファモチジンD錠(20mg) 1錠] 朝食後 2日分 [/ 処方・印]

- ※ 白血球 4000/mm³ 以上、好中球 2000/mm³ 以上で投与可
- ※ パクリタキセル投与開始後10分間はベッドサイドにて観察。
投与開始から1時間は、モニターをつけて15分毎に血圧・脈拍測定。以降は30分毎に測定。
- ※ 尿たんぱくは定期的に測定すること

抗がん剤療法指示票
F-07

GEM/CBDCA(ゲムシタビン/カルボプラチン)
+アバスチン療法

第()回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法	医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@	指示受け看護師				

通常投与量 : ゲムシタビン投与量 1000mg/m²
カルボプラチン投与量 AUC4× (CCr+25) {CCrはCockcroft-Gaultの式より算出}
アバスチン投与量 15mg/kg

投与間隔 : 1コース 21日 最大10コース

前回最終投与日		1回目	2回目
/		8 / 1 (月)	8 / 8 (月)
		施行決定医	

投与方法		1回目	2回目
①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢) <Dr>		
②	生理食塩液100mL+デキサート6.6mg+アロキシ0.75mg イメンド125mg 1カプセル服用 (②の開始時) (30分) <Ns>		
②	生理食塩液100mL+デキサート6.6mg (不要の場合は消すこと) (30分) <Ns>		
③	生理食塩液100mL +ゲムシタビン【 】mg 《参考投与量 1730.0 mg》 [1000mg/m ²] (30分) <Dr>		
④	5%ブドウ糖液250mL +カルボプラチン【 】mg 《参考投与量 309.8 mg》 (60分) <Dr>		
⑤	生理食塩液100mL +アバスチン【 】mg 《参考投与量 982.5 mg》 [15mg/kg] ※初回投与のみ90分、次回より60分、30分と短縮可 <Ns>		
⑥	生理食塩液50mL (末梢の場合終了抜去) ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>		

※各コース1日目
好中球1500以上、血小板10万以上で投与可
各コース8日目
好中球1000以上、血小板7.5万以上で投与可

処方 イメンド80mg 1錠 2日分 ケモ翌日から (アサ食後) [/ 処方・印]

※強い吐き気が予想されるとき
ケモ翌日から デカドロン錠(4mg) 1錠
ファモチジンD錠(20mg) 1錠] 朝食後 2日分 [/ 処方・印]

※定期的に胸部X線検査を実施すること(間質性肺炎のリスクあり)
F07【卵巣】GEM+CBDCA(ゲムシタビン+カルボプラチン)+アバスチン療法(指示票)

**抗がん剤療法指示票
F-08**

GEM(ゲムシタビン)療法 (卵巣がん)

第 () 回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署	外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医	
病名	病名テスト#####@	指示受け看護師			

通常投与量 : 1000 mg/m²

投与間隔 : 3週投与、1週休薬

[施行決定医]

前回最終投与日	①	8	月	1	日 (月 曜)	
/	②	8	月	8	日 (月 曜)	
	③	8	月	15	日 (月 曜)	

投与方法		1回目	2回目	3回目
①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢) <Dr>	実施時間 実施印		
②	生理食塩液100mL+デキサート6.6mg (不要の場合は消すこと) (30分) <Ns>	実施時間 実施印		
③	生理食塩液100mL +ゲムシタビン【 <u> </u> 】mg 《参考投与量 1730.0 mg》 [1000mg/m ²] (30分) <Dr>	実施時間 実施印		
④	生理食塩液50mL (末梢の場合終了抜去) ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>	実施時間 実施印		

<投与基準>

Day1 好中球数1500以上、血小板10万以上、Hb9.0以上で投与可 ※臨床試験データより
Day8以降 白血球数2000以上、血小板7万以上で投与可 ※適正使用ガイドより

※定期的に胸部X線検査を実施すること (間質性肺炎のリスクあり)

抗がん剤療法指示票
F-9

PLD療法(リポソーム化ドキソルビシン)

第()回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師	
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@			指示受け看護師		

通常投与量 : 40~50 mg/m²

* ドキシルの総投与量が500mg/m²を越えると心毒性のリスクが増大するため注意すること。

投与間隔 : 4週間ごと

前回までのドキソルビシンの総投与量【 】mg

前回最終投与日
/

	1回目
月 日	8 / 1 (月)
施行決定医	

投与方法

①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢)	実施時間	
		実施印	<Dr>
②	5%ブドウ糖液100mL+デキサート6.6mg (30分)	実施時間	
		実施印	<Ns>
③	5%ブドウ糖500mL +ドキシル【 】mg 《参考投与量 86.5 mg》 [50mg/m ²] (90分)	実施時間	
		実施印	<Dr>
④	5%ブドウ糖液50mL (末梢の場合終了抜去) ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去	実施時間	
		実施印	<Ns>

投与基準

好中球1500以上、血小板75000以上で投与可
血清ビリルビン1.1mg/dL以下

※血清ビリルビン1.2~3.0mg/dLの場合、用量を25%減量の上、再開可
※血清ビリルビン3.0mg/dLを超える場合、用量を50%減量の上、再開可

※ドキシル点滴中はモニターをつける

☆心機能モニタリング ・投与前 ・投与中は3ヵ月毎 ・投与終了時(中止後) に実施する

抗がん剤療法指示票
F-10

PLD（ドキシル注）+アバスチン療法

第（ ）回目

指示記入日 2016 年 7 月 27 日

ID	999-000-1	身長	165.5 cm	部署		外来・入院
氏名	化学療法 テスト9990001	体重	65.5 kg	指示医	化学療法 医師	
生年月日	1973年10月01日 男 42歳	体表面積	1.73 m ²	確認医		
病名	病名テスト#####@	指示受け看護師				

通常投与量 : ドキシル注 40~50 mg/m²
: アバスチン 10 mg/kg

* ドキシルの総投与量が500mg/m²を越えると心毒性のリスクが増大するため注意すること。

投与間隔 : 4週間ごと

(アバスチンは2週ごと)

前回までのドキシソルビシンの総投与量【 】 mg

前回最終投与日
/

	1回目	2回目
月 日	8 / 1 (月)	8 / 15 (月)
施行決定医		

投与方法

		1回目	2回目
①	生理食塩液100mLでルートキープ (ポート・末梢) <Dr>		
②	5%ブドウ糖液100mL+デキササート6.6mg (30分) <Ns>		/
③	5%ブドウ糖500mL +ドキシル【 】mg 《参考投与量 86.5 mg》 [50mg/m ²] (90分) <Dr>		/
④	5%ブドウ糖液50mL (フラッシュ用) (全開) <Ns>		/
⑤	生理食塩液100mL +アバスチン【 】mg 《参考投与量 655.0 mg》 [10mg/kg] ※初回投与のみ90分、次回より60分、30分と短縮可 <Ns>		
⑥	生理食塩液50mL 点滴し抜去 ※ただしポートを使用している場合はヘパリンNaロック用10mL注入後抜去 <Ns>		

投与基準

好中球1500以上、血小板75000以上で投与可

血清ビリルビン1.1mg/dL以下

※血清ビリルビン1.2~3.0mg/dLの場合、用量を25%減量の上、再開可

※血清ビリルビン3.0mg/dLを超える場合、用量を50%減量の上、再開可

※ドキシル点滴中はモニターをつける

☆心機能モニタリング・投与前・投与中は3ヵ月毎・投与終了時(中止後)に実施する

※尿たんぱくは定期的に測定すること